

## 面談相談模擬体験

### 目的

- ロールプレイを通じて、ナビゲーターとして支援を行うときのコミュニケーションスキルの重要性に気付く
- 相談場面におけるナビゲーターに求められる役割について理解する

## このセッションの流れ

- ① 導入
- ② ロールプレイ  
(ロールプレイ⇒フィードバック  
⇒全体で意見交換) ×3回
- ③ 全体のまとめ

## ロールプレイとは

何人かの参加者が  
ある特定の役になりきって行う  
筋書きのない劇である

## 今回のロールプレイ

- 1グループ3人(ナビゲーター・相談者・観察者)
- シナリオは3種類
- 1回の流れ  
ロールプレイ→フィードバック→全体で意見交換
- フィードバックは  
ナビゲーター →相談者 →観察者の順で

## ロールプレイのポイント

- 恥ずかしがらず役になりきる！
  - ナビゲーター役は普段の職種、スタイルで
  - 細かい内容について、シナリオとの多少のずれは問題ない
- 観察者はフィードバックするポイントを考えながら見守る
- 時間内に完結しなくてもよい
- 時間が余った場合は役を解かずそのまま会話を続ける

## フィードバックのポイント

- ナビゲーター役のスキルに重点を置く
- 明日からの活動に活かすためにどうすればよいか？という視点でフィードバックする
- 相談者役・観察者は、ナビゲーター役の良かった点、こうやったらもっと良くなるという点を話す
- 気づいたことすべてではなく、受け手（ナビゲーター役）が対処できる量（1～2つ）を伝える

## ロールプレイ

2分 ナビゲーター役は、ナビゲーターの職種と相談場所を決めます。

各自でシナリオを読み、役になりきります。

5分 ロールプレイ

5分 フィードバック

（医師役→患者役→観察者の順で）

そのセットについて全体で意見交換

× 3セット

# 相談場面の検討

1

## 目的

- 相談内容を的確に把握し、それに応じた支援の方向性を示すことができるようになる。
- 相談場面における適切な態度や用いるべきスキルについて理解する。
- 相談場面におけるナビゲーターの役割を理解する。

2

## 本セッションの流れ

相談場面のビデオを視聴

グループで検討

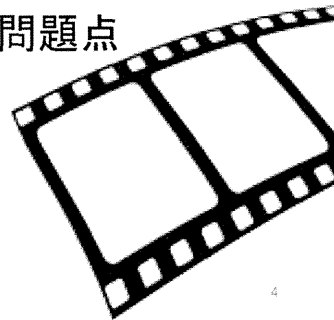
グループごとに発表

3

## ビデオ

ナビゲーターが相談を受ける場面(3例)を視聴し、以下についてグループで話し合いを行います。

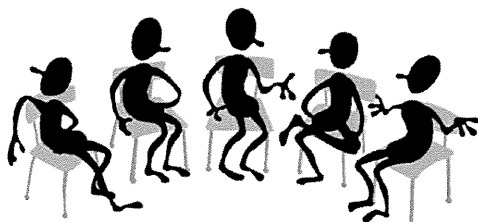
- 相談内容
- ナビゲーターの対応に関する問題点
- 対応の改善策
- 支援の方向性



4

## グループ討論

- 3例のうち決められた1例について、ナビゲーターの支援方法について話し合います。
- 司会者、書記、発表者を決めます。
- 話し合いながら、書記はワークシートを埋めていきます。



5

## グループごとの発表

- 発表者は、話し合った内容の要点をについて1分で発表します。



6

## シナリオ1

相談者： 胃がん疑い30代男性  
ナビゲーター： 薬剤師の資格あり  
相談場所： 保険薬局面談室

相談者は、会社の胃X線検査でポリープがみつきり、精密検査を受けるようにと産業医に言われました。もしかするとがんかもしれないという不安でいっぱい、検査を受けに行くことができずにいます。近所の保険薬局にがん医療ネットワークナビゲーターの資格を持った薬剤師がいることを知り、思い切って相談してみることにしました。

## シナリオ2

相談者： 大腸がんの父親を持つ30代女性  
ナビゲーター： 看護師の資格あり医療連携室勤務  
相談場所： がん相談支援センターを持たない中規模病院の連携室

相談者は、大腸がんの父親を持つ女性で、一人で生活をする父親のことを心配していますが、仕事や育児が忙しく、自分だけでサポートするのは難しいと感じています。どこに相談すればいいかわからずにいましたが、友人のお見舞いで立ち寄った病院にあったポスターでがん医療ネットワークナビゲーターの存在を知り相談してみることにしました。



## シナリオ3

相談者： 乳がんを患った40代女性  
ナビゲーター： ピアサポーター  
相談場所： 公民館のおしゃべり相談室

相談者は、乳がんの手術後、補助化学療法として抗がん剤の点滴治療を行っています。最近、治療がつらくなりやめたいと思っています。患者サロンに参加した際に、がん医療ネットワークナビゲーターの資格を持つピアサポーターがいることを知り、相談してみることにしました。

## 相談場面の検討シナリオ

### 【シナリオ1】

相談者：胃がん疑い30代男性  
がん医療ネットワークナビゲーター：薬剤師の資格あり  
相談場所：保険薬局面談室

相談者は、会社の胃X線検査でポリープが見つかり、精密検査を受けるようにと産業医に言われました。もしかするとがんかもしれないという不安でいっぱい、検査を受けに行くことができずにいます。近所の保険調剤薬局にがん医療ネットワークナビゲーターの資格を持った薬剤師がいることを知り、思い切って相談してみることにしました。

### 【トリガービデオ1】

相談者：あの一、がんのことでちょっとお伺いしたいことがあるんですが・・・

ナビゲーター：はい、なんでしょうか。

相談者：会社の定期検診でポリープが見つかって、精密検査を受けるようにと言われました。もしかするとがんかもしれないと心配になってしまって、なんだか夜も眠れずにいます。仕事も手につかなくて、考えていると心臓がドキドキしてきて落ち着かなくなるんです。なんだか、この動悸もがんの予兆なんじゃないかと心配になってきていて。こんなことを相談するのも恥ずかしいのですが、ちょっと自分だけではどうにも解決できなくて、だれかに相談したいと思ってきました。

ナビゲーター：検診の結果で精密検査を受けることになって心配されているんですね。それに不眠や動悸もがんの症状かもしれないと思っているんですね。

相談者：そうなんです。最近その頻度も多くなっていて、さらに心配になっています。

ナビゲーター：検査は受けたのですか。

相談者：いいえ、まだ受けていません。検査を受けようとは思っているんですけど、どうしても怖くて受けられないんです。検査でもしがんが見つかったときのことを想像すると恐ろしくて、検査に行くことができていません。検診の結果を受けてからもう3か月くらい経っているんですけど、未だに行くことができていなくて。本当に情けないですね。

ナビゲーター：検査を受けないと、ダメですよ。早く受けないから、余計に不安になるんですよ。

相談者：そうですね。早く受けないとダメですよ。でも、検査を受けようと思っても、どこを受診すればいいのかもわからなくて、色々調べるとさらに不安になってきてしまって、結局病院も見つけれないままです。こんな自分が本当に情けないです。

ナビゲーター：検査を受けられる場所を探されているんですか？うちは薬局なので、検査をどこで受けたらいいかはわかりません。そういったことは専門外ですので、他をあたってください。

## 【シナリオ2】

相談者：大腸がんの父親を持つ女性

がん医療ネットワークナビゲーター：看護師の資格あり医療連携室勤務

相談場所：がん相談支援センターを持たない中規模病院の連携室

相談者は、大腸がんの父親を持つ女性で、一人で生活をする父親のことを心配していますが、仕事や育児が忙しく、自分だけでサポートするのは難しいと感じています。どこに相談すればいいかわからずにいましたが、友人のお見舞いで立ち寄った病院にあったポスターでがん医療ネットワークナビゲーターの存在を知り相談してみることにしました。

## 【トリガービデオ2】

ナビゲーター：どうしましたか。

相談者：すみません、がん医療ネットワークナビゲーターのポスターを見てきたんですけど。

ナビゲーター：はい、私です。なにかご相談ですか？

相談者：はい。私のことではなく、父のことなんですけど、今年に入って肺がんが見つかって化学療法を受けているんです。手術は終わって今は自宅に戻っているんですけど、一人で生活しているので心配なんです。ここ最近認知症も少し心配になってきて、抗がん剤の管理もちゃんとできていないようなんです。

ナビゲーター：あなたではなくお父さんのことなんですね。

相談者：はい、私ではなく父です。それでも相談を受けてもらえますか。

ナビゲーター：基本的にはがん患者さん本人の相談を受けていますけど、いいですよ。

相談者：ありがとうございます。父の認知症のことも心配なんですけど、それだけじゃなくて、家事のことも心配していて。手術をして体力も落ちちゃったせいか、昔は活動的だったんですけど最近では家でもずっとテレビを見ているようで、家事も自分で行うのが難しい様子なんです。以前は、自分で掃除や洗濯もしていたんですけどね。私もサポートしてあげたいんですけど、仕事も育児もあってどうしようもなくて。週に一度は通っているんですけど、それも結構大変で・・・どうしたらいいでしょうか。

ナビゲーター：お薬の飲み忘れや飲みすぎは危険ですので、ちゃんと飲ませてあげてください。ご家族なんですからちゃんと注意してみてあげないとだめですよ。

相談者：そうですね……。どうにかしようと、できるだけ会いに行くようにはしているんですけど、毎日はとても難しくて。何かいい方法があれば、それを試してみたいんですけど……。

ナビゲーター：それはやる気と優しさの問題じゃないですか。お父さまのことが心配であれば、お仕事を辞めて介護に専念することだってできますし、一緒に暮らしてあげることだってできるでしょうし。もう少し、お父様のことを考えてあげてください。

【シナリオ3】

相談者：乳がん 40代 女性  
がん医療ネットワークナビゲーター：ピアサポーター  
相談場所：公民館のおしゃべり相談室

相談者は、乳がんの手術後、補助化学療法として抗がん剤の点滴治療を行っています。最近、治療がつらくなりやめたいと思っています。患者サロンに参加した際に、がん医療ネットワークナビゲーターの資格を持つピアサポーターがいることを知り、相談してみました。

【トリガービデオ3】

相談者：あの一、相談したいことがありまして、今お時間よろしいですか。

ナビゲーター：はい、どうしましたか。

相談者：乳がんの手術が終わって、今抗がん剤を始めたところなのですが、副作用が強くて、つらいんです。

ナビゲーター：副作用がひどいんですね。

相談者：そうなんです。体はだるいし、むくみもひどくて、最近はずっと寝てばかりで、もう治療もやめたいと思っているんです。体もしんどいですし、なんだか気持ちも落ち込んできちゃって、何もする気になれなくて……。この状態がずっと続くようだったら、もう治療はやめてしまいたいと思うんです。

ナビゲーター：副作用が辛いことについて、主治医の先生には伝えたんですか。

相談者：それが、あまりうまく先生に伝えられなくて。私の説明が下手なせいなのか、先生もあまり理解してくださらないんです。この前先生にお会いしたときもお伝えしたんですが、「このまま我慢してください」と言われてしまいました。他の患者さんたちは、つらい治療を我慢しているんですね。そしたら、私も我慢して続けていかなくちゃいけないと思うんですけど、でもどうしても耐えられなくて。

ナビゲーター：それはひどい先生ですね。そういう先生には頼れませんね。

相談者：先生もお忙しそうで、あんまり不満を言うのもどうかと思って、何も言えずにいます。

ナビゲーター：そういう先生は患者さんのことをちゃんと考えていないんです。もっと患者さんのことを考えてくれる先生なら、そういう言い方はしないですよ。でも、そういうひどい先生は多いみたいです。ここの病院の3階にいる患者さんなんて、吐気がひどかったのに何も対応してもらえなくて、結局は救急車で運ばれるまでずっとほっとかかれていたんですよ。本当にひどい話ですよ。そんなふうにならないように、あなたもすぐに病院を替えた方がいいですよ。

### グループ討論

- ①グループで選んだほうの事例に○をつけてください。 (1) 胃がん疑いの患者 (2) 大腸がんの父親を持つ女性 (3) 乳がん患者  
 ②以下の項目についてグループで話し合い、話し合ったことを記入してください。

相談内容	ナビゲーターの対応に関する問題点	対応の改善策	支援の方向性



振り返り

アンケート記載

# 閉会挨拶 片渕 秀隆

熊本大学大学院生命科学研究部  
産婦人科学分野

2015認定がん医療ネットワークナビゲーター  
コミュニケーションスキルセミナーin京都

日時:平成27年11月1日 13:00～16:00  
場所:京都大学医学部芝蘭会館 山内ホール

**【資料9. 認定がん医療ネットワークナビゲーター 研修の実施要綱（改訂版）】**

## 研修の実施要綱（改訂版）（資料9）

（V1.1.10:2016年3月3日）

【はじめに】がん診療ネットワークナビゲーター（以下ナビゲーター）の役割は以下の通りです。

- ⑥ 地域におけるがん診療情報や医療サービス情報を収集する。
- ⑦ がん患者・家族等の求めに応じ、がん診療情報や医療サービス情報を適切に提供する。
- ⑧ 地域連携クリティカルパスの運用支援を行う。
- ⑨ 臨床試験・治験に関する情報を適切に提供する。
- ⑩ 医療介入またはこれに相当する可能性のある行為は行わない。

Aセッション、e-learning、Bセッションを修了した方が、ナビゲーターの実務を開始し上記の役割を果たす前に最後の研修として実地研修を位置づけています。ナビゲーターの役割の一つに、がん相談支援センター相談員（以下相談員）の業務を、拠点病院や拠点病院以外の地域で補完する役割があります。地域のネットワークに所属して、地域・生活の場でがん患者さん・ご家族の困難を拾い上げ、ネットワークの適切な場に「つなぐ」事がナビゲーターの大きな役割です。従って、ナビゲーターの実地研修を指導責任者\*の指導の下に認定研修施設\*\*のがん相談支援センターを中心に行う事としました。実地研修では以下のことが求められ評価されます。

- ⑦ 研修施設で行われているがん診療を見聞する事。がん患者さんの診療場面、カンサード、緩和回診、緩和外来は必須です。
- ⑧ 実際に相談者との面談を見聞すること。可能なら実際に経験すること。
- ⑨ がん相談支援センターの業務を理解する事。
- ⑩ がん相談支援センター等、ネットワークの構成員と顔の見える関係を構築すること。
- ⑪ ナビゲーターが所属するネットワークの中での自分の活動の場を明らかにする事。
- ⑫ 相談者およびネットワークの他の構成員と良好なコミュニケーションを維持する事があります。

これらの研修を通じて倫理面も同時に評価されます。

- ⑤ ナビゲーターの立場を明らかにする事。
- ⑥ 個人情報の取り扱い。
- ⑦ 守秘義務。
- ⑧ 医療介入やこれに相当する可能性のある行為は行わない。

見聞または経験した相談症例のうち10症例の相談シートを記載し指導責任者の指導・評価を得ていただきます。相談症例のうち2症例のレポートを作成し指導者とのディスカッション内容を記載していただきます。実地研修の審査は、担当したがん患者のうち10例の一覧表、相談シート、2症例のレポートに基づいて認定施設の施設長および指導責任者が研修の終了証明を行います。

\*指導責任者（日本癌治療学会正会員かつ日本がん治療医認定機構の認定する癌治療認定医の条件を満たし日本癌治療学会が指導責任者として認定した医師）

\*\*認定指導施設（指導責任者1名以上が常勤し、指導責任者の下に十分な指導体制が取られていて以下の項目のいずれかの資格を有し日本癌治療学会が認定指導施設として認定した施設）

- (1) 全国がん（成人病）センター協議会加盟施設